

CIGRE WG C4.208 開催報告書

1. 開催内容

- (1) 委員会開催：2010年1月11日（月）9:00～17:30, 1月12日（火）9:00～15:00

場所：同志社大学今出川校地 寒梅館 6階大会議室

参加者：計12名

Member：Dr. W. H. Siew (convener, UK), Prof. Q. Li (China), Dr. P. Muttik (Australia), Dr. E. Salinas (Sweden), Prof. J. Van Coller (South Africa), Mr. P. Yutthagowith (Thailand), Prof. A. Ametani (Organiser, Japan),

Corresponding member：野嶋健一（東芝），梶野宏樹（三菱電機），長岡直人，馬場吉弘，丸山祐里依（同志社大）

- (2) 晚餐会：2010年1月11日（月）18:30～22:30

場所：花の

参加者：Mrs. W. H. Siew 他 計12名

- (3) WG記録等打合せ：2010年1月14日（木）11:30～15:00

場所：同志社大学 寒梅館 6階大会議室

参加者：Dr. & Mrs. W. H. Siew, Prof. A. Ametani, 長岡直人（同志社大学）

2. 開催状況

- (1) 2010年1月11日（月）

- 午前9時：同志社大学今出川校地寒梅館（写真1）でWG C4.208 会議開始
- 9:00～12:00：雨谷がWGメンバーへ”Welcome to this historical city of Kyoto and Doshisha University! Please enjoy your stay in Kyoto!”と歓迎のあいさつ。ConvenerのDr. SiewからWG C4.208の開催を受け、また経費の補助も頂いた日本CIGREと会場を提供した同志社大学へ感謝の意が述べられ会議が始まった。

Dr. SiewからEMC Guide改訂版の現状説明の後、この改訂版に基本的変更はなしとするこれまでの了解でよいのか？との問いに1名の委員から4章4.1節の日本でのEMC障害経験は本文としては不適當で付録にすべきではとの意見が出され会議は紛糾、写真2はこの意見に日本代表委員が反論している様子である。この議論が正午近くまで続き、4.1節を第4章最後の節とすることで決着。

Convenerから本日以降の基本的変更はなしとすることです承の要請有。出席者全員了承。昼食時に、初めて出席した委員からCIGRE WGの議論の激しさに驚いたとの



Photo 1 寒梅館

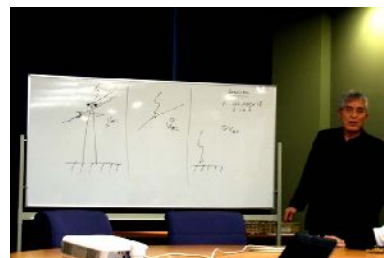


Photo 2

感想有。

- 12:00～13:00：写真3の「わびすけ」で昼食。このレストランは同志社大学創立当初（1870年代）には大学校地内にあり。言うなれば現在の大学食堂の原点のようなもので教員、学生と一緒に食事をしていたが、その後、校地内に建物が増え現在の大学西門前に移ったとの説明にWG委員から、欧州の大学でも昔はそうだったとの話有。全員「わびすけ」名物の「いもねぎ定食、Egg omelet with potatoes, onions and sliced meats」に満足したとのことであった。

- 13:00～17:30：写真4に会議室へ戻ってくる委員の様子を示す。左から J. Coller, H. Siew, Q. Li, P. Muttik, 雨谷。

午後、EMC Guide 改訂版の各章毎にその内容について検討。各章それぞれに活発な議論で17時終了が30分超過。晚餐会を18:30からに設定していたので、17:30 会議打ち切り、あわててタクシーに分乗、京都駅近くのホテルに荷物を置いた後、会場の祇園「花の」に急行。

- 18:30～22:30：晚餐会は大いに盛り上がり全員大満足、大満腹。「花の」のおかみと仲良くなり、明日また来ると言っていた委員も有、英語とスペイン語と日本語が飛び交っていた。あまりにも満腹のため、祇園から四条大橋、賀茂川を眺め、四条河原町へ、京都で一番古い喫茶店の一つ「築地」で全員ウインナー珈琲を楽しむ。街の喧騒と打って変わった静けさの中、ウインナーワルツなどのクラシックに皆満足した。



Photo 3 「わびすけ」



Photo 4 寒梅館前

(2) 1月12日（火）

- 9:00～12:30：EMC Guide 第5章～第7章の内容について議論。30分超過して一応WG終了。
- 12:30～13:30：寒梅館最上階のレストラン「セカンドハウス」で昼食、京都が全望できるレストランに満足。
- 13:30～14:30：同志社大学今出川校地案内、重要記念物クラーク館（1893年建設）の前で写真（photo5）。会議が無事終了し、全員笑顔。
- 14:30～15:00：近くの喫茶店で次回開催等の再確認を行い解散。



Photo 5 クラーク館前にて

会議記録

1) 開会のあいさつ

主催者：同志社大学 雨谷 昭弘

WG 委員長 Dr. W. H. Siew

2) EMC ガイド改訂版（2009.12 版）に基本的変更が必要か？

- Prof. J. V. Collier：4.1 節の日本での EMC 障害経験は“case study”の部類ではないか、従って、第 3 章又は第 4 章の付録とすべき。
- 雨谷：4.1 節は case study ではなく EMC 障害の統計データであり、世界的に見て極めて貴重なもので付録には該当しない。参考までに 4.1 節に関連する日本での case study は多数有、これらを 4 章の付録として追加する予定である（参考文献配布）。
- 結論：3 章はそのまま。4.1 節→4 章の最後の節とする。
- 第 3 章、第 4 章については上記で了承。

3) 第 1 章 Introduction－担当 Dr. Siew

- 修正箇所多少有。了承。

4) 第 2 章 Definition－Prof. Q. Li

- IEC の definition と整合を取る。了承。

5) 第 3 章 Source of Disturbances－Prof. J. V. Collier, Dr. E. Salinas

- 修正箇所多少有。了承。

6) 第 4 章 Characteristics of Disturbance Levels－雨谷, Dr. E. Salinas

- 4.1 節→4.4 節, 4.2～4.4→4.1～4.3 節
- 4.5 節 Appendix

3 章 Appendix→4.5.1, 現 4.5.1～4.5.3→新 4.5.2～4.5.4 4.5.4→6 章へ

- 4.2.1→5.6.4 へ
- P.62/Table 16 IEC0225→IEC0255

2010 年 1 月 12 日（火）9:00am～2:30pm

7) 第 5 章 Coupling Mechanism and Mitigation Method

- Dr. Saad からのコメント
- 5.6 節 Appendix 5.6.4→4.2.1 と入替え
- 以上で了承。

8) 第 6 章 Laboratory Tests/In Suit Tests－Prof. J. V. Collier

- 6.1 General→不要
- In Suit Tests に関して米国のデータ要→US 企業に尋ねる。
- 鉄道の変電所入れるか→no.
- 以上で了承。

9) 第 7 章 Practical Implementation－Dr. P. Muttik

- 了承。

2010 年 1 月 14 日（木）11:30am～3:30pm

10) 第 4 章 日本側との最終調整

- 2010.1.11/12 版電子ファイル 雨谷受取→雨谷が修正を行う。

11) 3pm から Dr. & Mrs. Siew を市内案内

WG C4.208/Kyoto Meeting Attending Members

RM=Regular Member, CM=Corresponding Member

No.	National Committee	Member Name		Company / University	
1	Sweden	Ener	Salinas	ABB Corporate Research	RM
2	China	QM	LI	Shandong University	RM
3	South Africa	John	Van Coller	University of the Witwatersrand	RM
4	Australia	Peeter	Muttik	Areva T&D Australia	RM
5	Japan	Akihiro	Ametani	Doshisha University	RM
6	UK	WH	Siew	University of Strathclyde	RM
7	Thailand	Peerawut	Yattagoiwith	King Mongkut's Institute of Technology	RM
8	Japan	Yoshihiro	Baba	Doshisha University	CM
9	Japan	Hiroki	Kajino	Mitsubishi Electric Corp.	CM
10	Japan	Kenichi	Nojima	Toshiba Co.	CM
11	Japan	Naoto	Nagaoka	Doshisha University	CM
12	Japan	Yurie	Maruyama	Doshisha University	CM